

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的拡大に伴い、適正かつ合理的な将来の見積もりが困難なため、2021年3月期の業績予想、および新中期経営計画の公表を未定としております。

新型コロナウイルス感染症による業績への影響を慎重に見極め、詳細が明らかになり次第、速やかに公表いたします。



日本化学工業株式会社

# 2020年3月期 業績概要

- 1 2020年3月期連結業績概要
- 2 前中期経営計画振り返り  
(2018年3月期～2020年3月期)

2020年5月15日

日本化学工業株式会社 4092

© Nippon Chemical Industrial Co., Ltd.

# 1

## 2020年3月期連結業績概要

# 2020年3月期連結業績

(百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減	増減率
売上高	36,157	36,243	85	0.2%
営業利益	3,084	2,481	▲ 603	▲ 19.6%
経常利益	3,057	2,545	▲ 512	▲ 16.7%
純利益	2,154	1,857	▲ 296	▲ 13.8%
ROE	6.2%	5.2%		

# 2020年3月期事業別の収益

(百万円)

		2019年3月期	2020年3月期	増減
化学品	売上	15,584	15,509	▲74
	営業利益	661	492	▲169
機能品	売上	14,849	15,470	620
	営業利益	1,423	1,280	▲143
賃貸	売上	893	912	18
	営業利益	548	532	▲16
空調 関連	売上	3,869	3,418	▲451
	営業利益	350	139	▲211
その他	売上	959	931	▲27
	営業利益	81	62	▲19
合計	売上	36,157	36,243	85
	営業利益	3,084	2,481	▲603

## 化学品

クロム製品	めっき向け落ち込み
シリカ製品	環境関連向け伸長
りん製品	光学ガラス低調、液晶好調
その他	リチウム製品低調、亜酸化銅堅調

## 機能品

ホスフィン誘導体	海外向け大幅に落ち込み
農薬	主要顧客向け減少
電池材料	主要顧客向け堅調
電子セラミック材料	自動車・通信向け大幅に伸長
回路材料	主要顧客向け堅調
その他	有機電子材料堅調

## その他

賃貸	イオンタウン郡山増築
空調関連	新規設計・施工・メンテ需要低調
書店経営	前年同期並み
その他	環境測定低調

# 連結貸借対照表 資産の部

(百万円)

【資産の部】	2019年3月期	2020年3月期	増減
流動資産	30,794	29,696	▲ 1,098
現金及び預金	9,051	9,392	341
受取手形及び売掛金	10,861	10,820	▲ 41
たな卸資産	10,364	8,840	▲ 1,524
その他流動資産	518	644	126
固定資産	34,703	36,254	1,551
有形固定資産	27,014	29,279	2,264
無形固定資産	319	644	325
投資有価証券	6,597	5,735	▲ 862
その他の資産	773	596	▲ 177
資産合計	65,497	65,950	452

# 連結貸借対照表 負債・純資産の部

(百万円)

【負債・純資産の部】	2019年3月期	2020年3月期	増減
流動負債	18,925	15,930	▲ 2,995
支払手形及び買掛金	4,617	3,194	▲ 1,423
短期借入金	9,143	7,825	▲ 1,317
その他流動負債	5,165	4,911	▲ 254
固定負債	11,073	14,251	3,178
長期借入金	5,422	8,161	2,739
退職給付に係る負債	1,299	1,999	699
繰延税金負債	2,118	1,706	▲ 412
その他長期負債	2,233	2,385	152
負債合計	29,999	30,181	182
【純資産の部】			
株主資本	32,514	33,799	1,285
その他の包括利益累計額	2,983	1,968	▲ 1,015
純資産合計	35,497	35,768	270
負債・純資産合計	65,497	65,950	452

# 連結損益計算書

			(百万円)
	2019年3月期	2020年3月期	増減
売上高	36,157	36,243	85
売上原価	28,073	28,457	384
販売費・一般管理費	4,999	5,304	305
営業利益	3,084	2,481	▲ 603
営業外収益	326	293	▲ 33
営業外費用	354	229	▲ 125
経常利益	3,057	2,545	▲ 512
特別利益	55	194	139
特別損失	156	228	72
税金等調整前純利益	2,956	2,511	▲ 445
法人税等	746	624	▲ 122
法人税等調整額	56	29	▲ 27
純利益	2,154	1,857	▲ 296

# 連結キャッシュフロー計算書

(百万円)

	2019年3月末	2020年3月末
I 営業活動によるキャッシュフロー	2,632	4,776
税金等調整前当期純利益	2,956	2,511
減価償却費	2,155	2,657
たな卸資産増減	▲ 2,148	1,523
その他	▲ 331	▲ 1,915
II 投資活動によるキャッシュフロー	▲ 3,966	▲ 5,503
設備投資支出	▲ 3,965	▲ 5,794
その他	▲ 1	291
III 財務活動によるキャッシュフロー	1,445	842
借入金の増減額	2,068	1,423
配当金支払い額	▲ 614	▲ 570
その他	▲ 9	▲ 11
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	▲ 5
現金及び現金同等物の増減額	113	109
現金及び現金同等物の期首残高	8,927	9,041
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	165
現金及び現金同等物の期末残高	9,041	9,315

# 2

## 前中期経営計画振り返り (2018年3月期～2020年3月期)

# 前中期経営計画方針

## 持続的安定収益の実現に向けて

①重点分野への集中投資	②海外戦略の積極的展開	③経営基盤の強化
機能品事業の拡張	アジアマーケットへの積極的販売	国内既存マーケットの巻き返し
次世代製品を取り込んだ新工場建設	海外事業所の連携強化	保有資産の有効活用
M&Aの推進	東南アジア生産拠点設立の検証と実現	人材育成の促進

成長戦略

構造改革・強化

# 前中期経営計画の振り返り

## 「持続的安定収益の実現」に向けた足固め

方策	実績
重点分野への 集中投資	<ul style="list-style-type: none"><li>・電子材料、有機関連製品への投資を実施。</li><li>・電子材料の新生産棟建設を決定、現在進行中。</li><li>・子会社の日本ピュアテック(株)がロックゲート(株)を買収、量子コンピュータ向け極低温冷却機ほか理化学機器を扱う</li></ul>
海外戦略の 積極的展開	<ul style="list-style-type: none"><li>・東南アジアを中心に、一部製品の海外生産を検討。</li><li>・当社製品の海外展開を促進。</li><li>・海外拠点間の連携強化。拠点間貿易の拡大を目指す。</li></ul>
経営基盤の 強化	<ul style="list-style-type: none"><li>・保有資産の有効活用：西淀川工場跡地再開発の完遂。</li><li>・既存製品の顧客開拓深耕・シェア拡大。</li><li>・適材適所の人員配置、中途採用による人材確保。</li></ul>

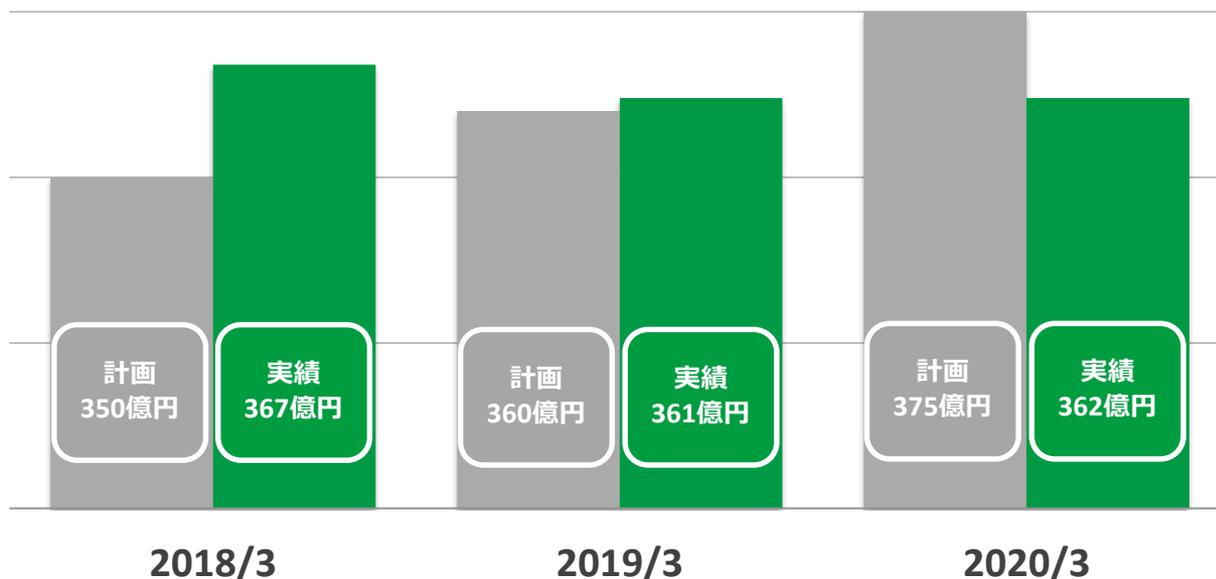
# 前中期経営計画の振り返り

売上・利益は2年目までは計画達成も、3年目は未達。  
積極投資推進により減価償却費が増加、利益を圧迫。

## 営業利益

計画	25億円	計画	28億円	計画	29億円
実績	40億円	実績	30億円	実績	24億円

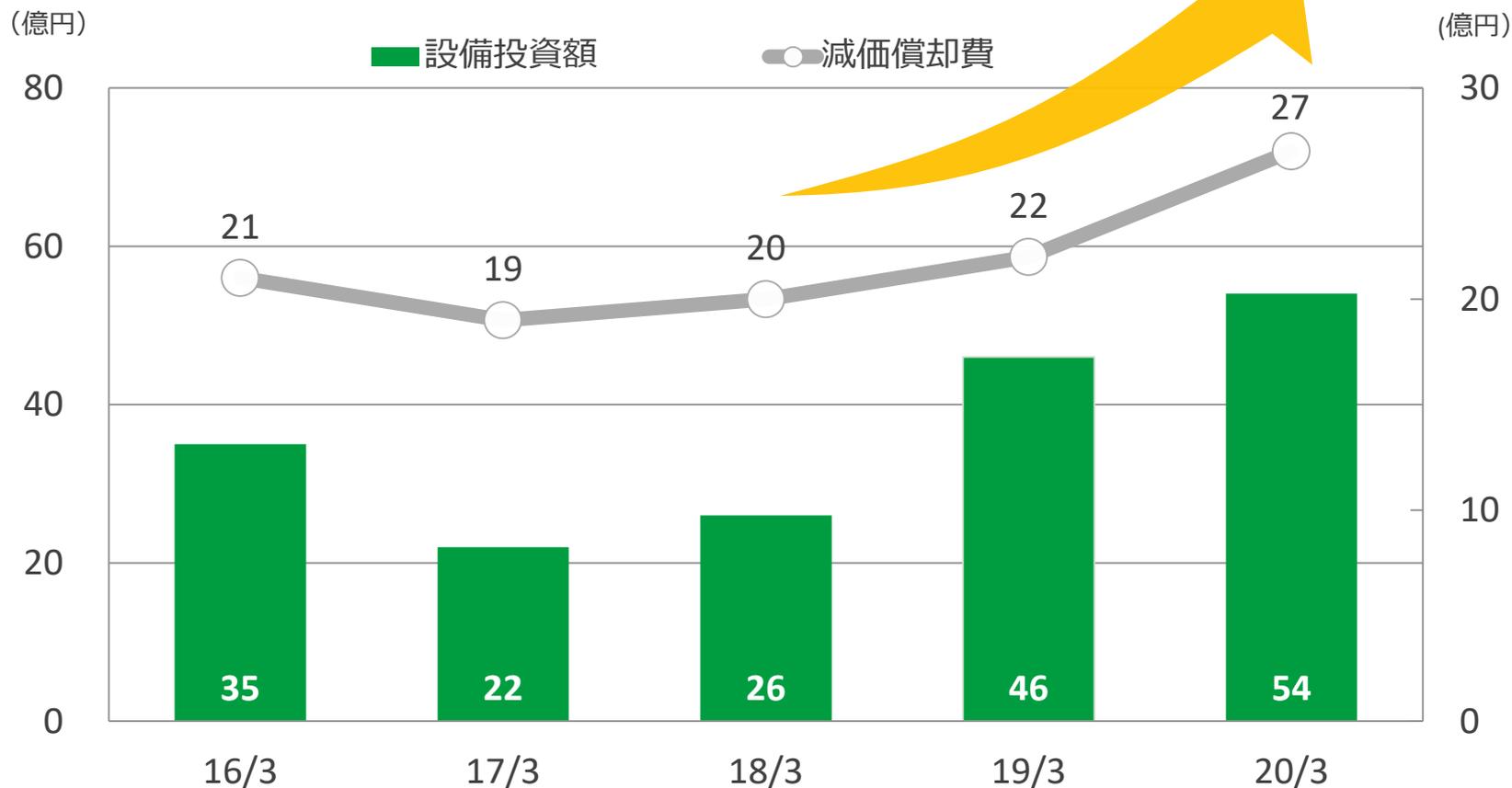
## 売上



# 前中期経営計画振り返り

設備投資の積極的推進により、減価償却費も上昇傾向

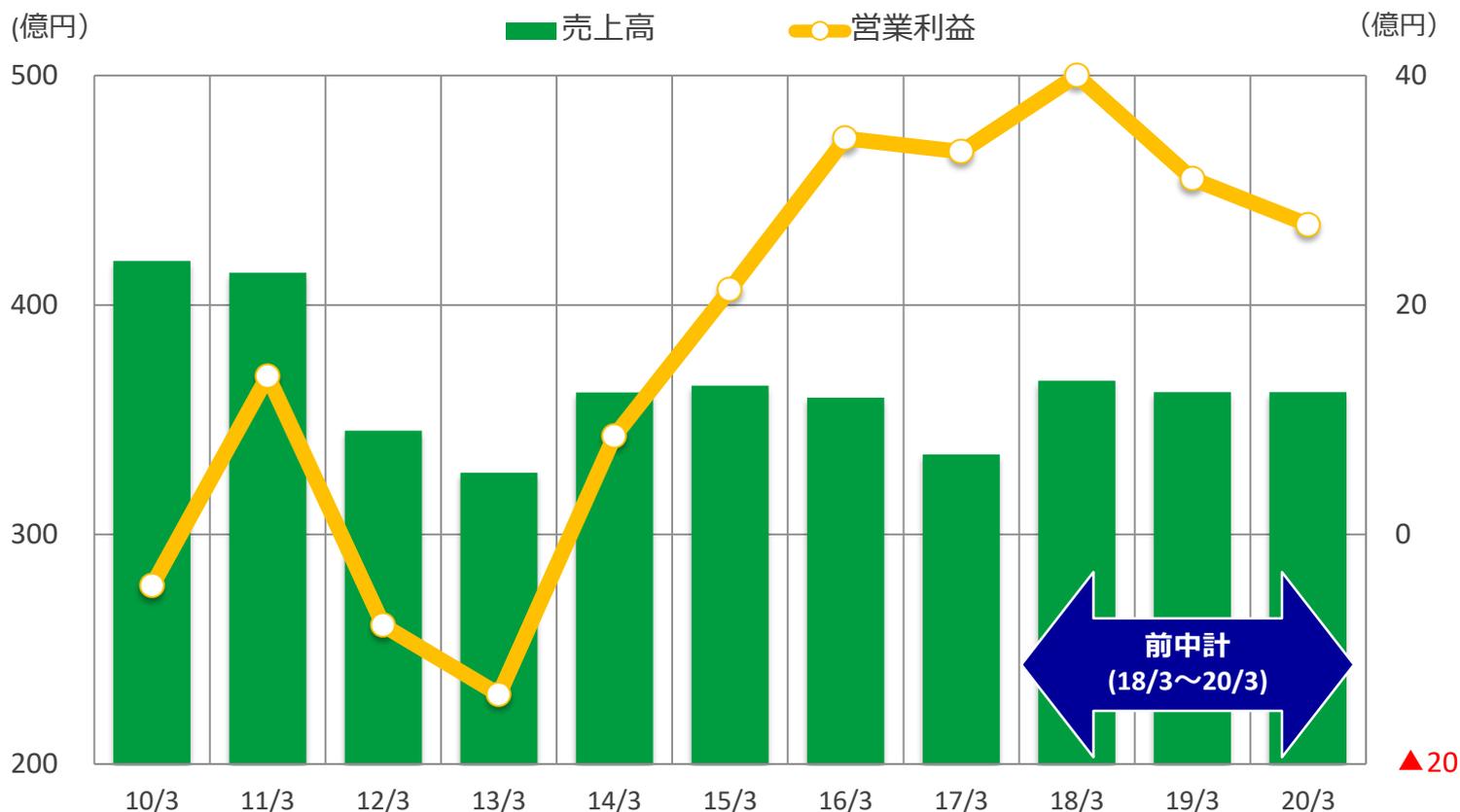
## 設備投資額・減価償却費の推移



# 前中期経営計画振り返り

営業利益は18年3月期に40億到達、その後低下傾向

## 過去10年間の売上・営業利益推移



# 前中期経営計画振り返り

## 設備投資・新製品売上高

### 設備投資

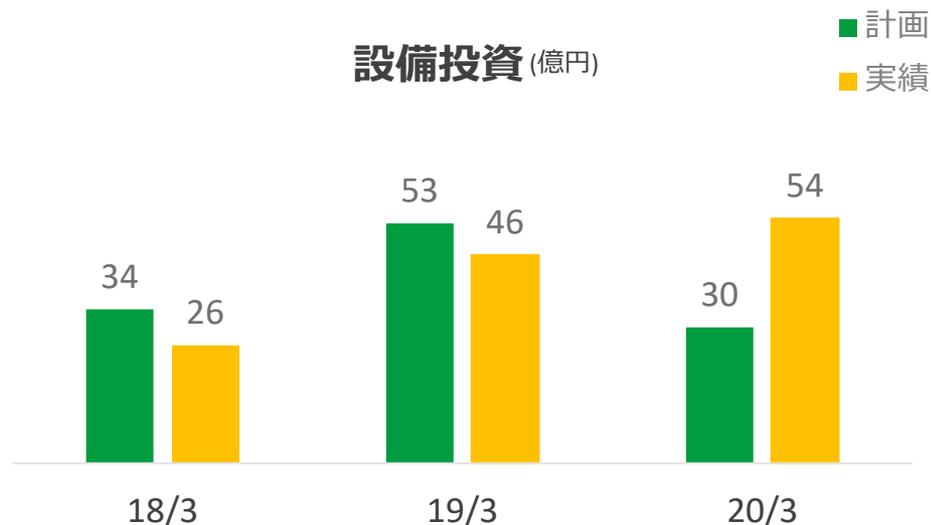
電子材料・有機関連製品へ集中投資。  
電子材料は既存の福島第一工場の能力増強を実施した。さらに将来を見据え、徳山工場において新生産棟の建設に着手している。これにより、拡大する需要の取り込みと供給の安定化を目指す。長期的な成長に向けた足固めに注力。

### 新製品売上

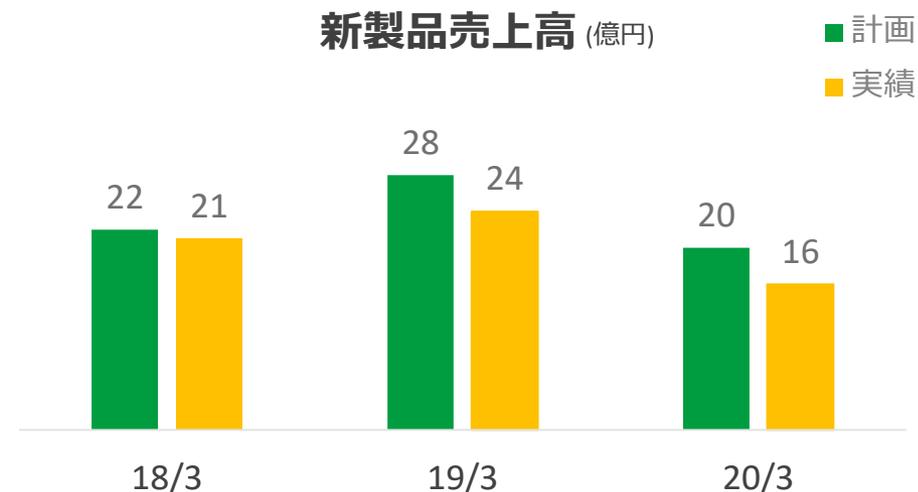
需要動向の変化で新製品開発計画に変更が生じ、計画未達。  
当社のコア技術を活用した新製品開発に取り組む。

※新製品：製品として登録した年度から翌々年度までの製品群

設備投資 (億円)



新製品売上高 (億円)

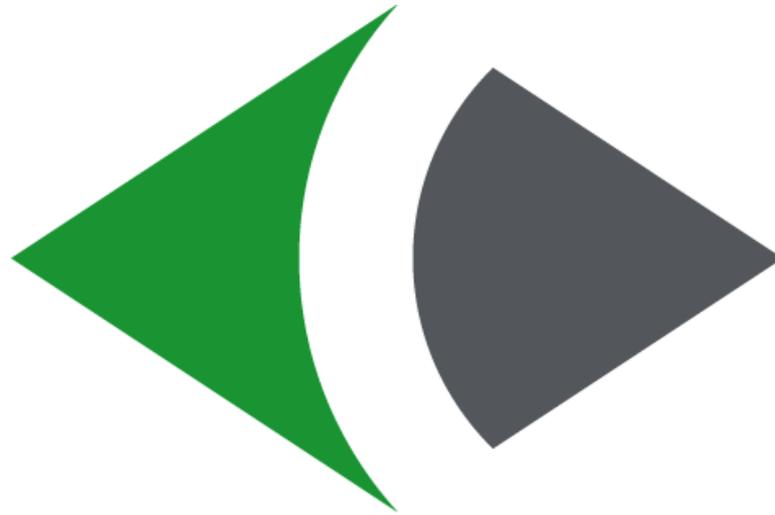


# 今後の見通し

## 「未定」も持続的安定収益の実現に向けた施策継続

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を現時点で合理的に算出することが困難なため未定としておりますが、引き続き「**持続的安定収益の実現**」を最重要課題とし、以下の重点施策に取り組んでまいります。

- ①多様化する顧客ニーズを満たし、差別化出来る製品を提供し、既存事業のシェア維持と新規顧客開拓を図ります。
- ②無機合成技術、結晶性・構造制御技術、表面改質・コーティング技術及びホスフィン誘導体技術等、当社のコア技術を活用した高付加価値製品の開発に取り組みます。
- ③国内外グループの連携を強め、情報を共有・分析することで新たな価値の創造を図ります。



**日本化学**